

# けやき

第3号 2007年3月20日発行



## 櫟の「信の杖」をもちたい

大仙市教育委員会 教育長

三 浦 憲 一

幼稚園、小・中学校の教職員の皆様には、平素から大仙市の教育推進に向け、ご尽力いただいておりますことに心より御礼申し上げます。

大仙市は近隣8市町村の合併により、「人が生き人が集う夢のある田園交流都市」を目指して誕生してから、2年目が過ぎようとしております。

“まちづくり”は“ひとづくり”と言われるとおり、未来の大仙市を担う市民として、望ましい資質をはぐくむためにも教育の果たす役割は誠に重要でございます。教育分野においては、『学校の教育力(学校力)を高め、家庭・地域社会に信頼され、子どもたちの「生きる力」(人間力)を確かなものにする大仙市の学校教育』を目指して、次の四点を重点として取り組んでまいりました。

- 1 子どもたちにとって楽しく明るい学校づくり
- 2 家庭や地域社会と一体になった「開かれた学校」  
「特色ある学校」づくり
- 3 心力・体力・学力のステップアップできる学校づくり

4 子どもたちの安全・安心が保証できる学校づくり  
さて、現在の学校には、「学力低下」「いじめや不登校」「安全・安心の確保」等多くの課題が山積しております。今こそ、幼児教育から高等教育までの全体を通じた連携・接続が重要です。そのためには、義務教育を終えるまでに育てたい子どもの姿を具体的に捉え、その実現に向けて幼保・小・中学校が相互理解と連携を深めながら、それぞれの発達段階に応じた取り組みをしていくことが大切です。

教師にとっては「いつか来た道」ですが、子どもたちにとっては「未来の道」です。「共に」「創る」「考える」「開く」の精神のもと、温かい目、厳しい目、協働の目などをフルに動員した教育営為でありたいものですし、「教える」ことと「育てる」ことの二つの調和を求めたいものです。

改めて、子どもたちを広い視野からとらえ、自らの手元に引き寄せ、毎日の授業を通して「今」や「未来」に必要としている確かな力をつけるべく、櫟の「信の杖」をもった大仙教師として、着実な歩みをしたいものです。



# 小学校へのスムーズな接続のために ～ 相互職場体験事業から ～

かみおか幼稚園 園長 田代 啓子

## 1 はじめに

本園は土手を隔てて神宮寺小学校が隣接しています。運動会や親子行事等で学校の施設を借用したり、指導主事訪問時には相互に保育・授業を参観し合ったりと連携を深めています。本年度、教育庁幼保推進課では幼稚園と小学校教員による相互職場体験事業を展開しています。「一緒に事業やってみるっしべー」という教頭先生のお誘いがあり、6月から半年間取り組んできました。

## 2 6月の計画立案では

まず、小学校の年間行事と、幼稚園の教育課程をつきあわせ、幼・小が共に活動できる時期や内容について話し合い、「互いに保育と授業を見合うこと」と、「子ども同士の交流の場をつくる」という2つの視点で活動することにしました。

## 3 保育・授業を見合って

小学校の国語「おむすびころりん」の単位では、おじいさんの気持ちになって音読するという教師のねらいに迫るために、在園中に一年生が製作した馴じみの創作童話の「一部分の読み聞かせ」でT T（ティーム・ティーチング）として参加しました。心をこめた読み方に気付いた一年生がおじいさんの気持ちになって音読し、ねらい達成への一役を担うことができました。

一方、小学校の先生からは、小麦粉粘土遊びでチーム保育をしていただきました。思い思いに粉を練り、型抜き、オーブンで焼き上がったところでままごとのお菓子に見たてて遊ぶという、子ども達の一連の活動のあと、小学校の先生は「幼稚園での指導過程や学びの姿を把握することができた」と話されました。

## 4 子ども同士の交流から

幼稚園のさつまいも畑と小学校の畑が隣であることからさつまいも収穫後、畑に集まり、いものつるで「リース」作りをしました。

在園中に経験済みの一年生から園児がその作り方の伝授と手伝いをしてもらうことが目的でした。事前の活動の打ち合わせとグループ編成により、スムーズに作業が進みました。互いに顔見知りのこともあり、子ども同士の会話が弾み和気あいあいのリース作りができ、園児単独で行っていた時とは比べられないほど効率よく進めることができました。今後もこの活動を通して異年齢交流を続けたいと思います。

11月には幼稚園の親子で楽しむ行事「おあそびいっぱいわーいのひ」を行い、お店作りに強力な助っ人として一年生が準備作業に参加してくれました。看板や、札、お金作りを手際よく進める一年生を目の当たりにして、多くの園児はやがて来る目を見通し、一年生に憧れを抱いていたようでした。



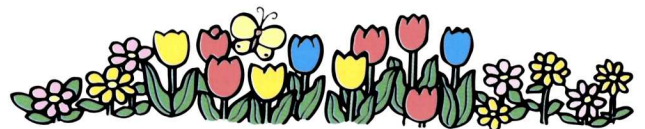
看板作りを手伝う一年生

## 5 相互職場体験事業を終えて

一年生の授業にT Tとして参加してみて、主人公の気持ちを引き出そうとする教師の願いや手立てを知ることができました。

このことは園生活で大事にしている「思いを言葉で伝える」営みと深くかかわっていることを実感しました。また、一年生の一日の生活を参観することにより、授業の合間が短時間である実態と、次の活動への切り替えや準備のリズムに数ヶ月で順応していた一年生の成長した姿に触れることが出来ました。このことを園児の生活と照応してみる時、生活習慣の自立という大きな目標が就学と密接につながっていると感じました。今回の事業をきっかけにして、今までの幼・小の連携では見えなかったことが少しずつ見え始めました。

幼・小の情報交換の機会を多くし、交流を継続的で無理のない計画で実践することが、幼稚園から小学校へのスムーズな接続につながるのではないかと思います。





# ワクワクどきどき・理科専科の取り組み

大仙市立内小友小学校 校長 藤原 保子

校長として初めて勤務することになった内小友小学校は、かつて学力向上フロンティア公開研究校として熱心に研究を進めた蓄積が見事に奏功していると伺っておりました。また、児童の学習意欲と職員の研修への情熱が高いという評判もずっと耳にしていたので、緊張感と責任感で押しつぶされそうな思いで赴任いたしました。

さすが、内小友小児童の基礎学力は高く、これまで研究同人として実践研究を積み重ねてこられた職員の皆さんのおかげと深く首を垂れた次第であります。

藤嶋前校長から職務を引き継いだ際、教務主任が3年以上の理科を全時間担当する理科専科構想をお聞きし、理科教育によせる期待並々ならぬものがあることを、強く脳裏に焼き付けました。

実際に授業が始まると、なるほど登校直後に動植物の観察をしている児童、家庭学習において星座観察して気付いたことをまとめ、新たに調べ学習をした跡があるノートを指導教員に持ってきて説明をしたり、アドバイスを受けたりする児童が増えました。「実験を家で取り組んでみたいから、〇〇をもらえませんか。」と放課後にお願ひに来る児童等々、毎日のように繰り返される光景に目を見張らされます。そしてまた、児童一人一人の思いにしっかり寄り添い、さらに児童の興味を呼び起こすような声かけをしながら指導する姿に、感心することしきりです。

本校理科室と理科室前の廊下は、3年以上の実験道具や児童の研究のまとめの掲示物でいっぱいです。それらで理科室が埋め尽くされていると言っていいでしょう。郡市理科研究発表会には、1年生から6年生まで、16人の児童が参加しましたので、所狭しと発表要項が展示されています。夏休みの自由研究には、驚くことに1年生も理科に取り組んでいるのです。つまり、3年以上の学習する姿が、1・2年生にもよい影響を及ぼしていると考えられます。また、1・2年の生活科においても、単元計画や教材研究に指導教員が協力することもあります。保護者を巻き込んでの2年の生活科の授業の際、児童の発表内容や発表力に保護者も驚かされました。三段論法を使ったりクイズ形式を導入したり、保護者もたじたじとなっておりました。それらの力を支えるのは、やはり日々の担当者の指導の充実であります。本当に本校児童は理科が好きです。指導教員が好きとも言えます。

このような日々の理科専科の実践は、次のような効果ももたらしました。

① 児童の科学的な思考の発達を促すとともに、発

表の仕方や原稿のまとめ方等の力も向上させており、学級担任は、これらの力を他教科でも生かすことができるようになりました。

② 学習内容によっては、担任もT2として授業を行うことにより、理科指導の研修の場となりました。

③ 教師の専門性を発揮することのよさを実感し、年度途中ではあったが研究主任が先に立って合同授業や交換授業を広げました。次年度はさらなる拡大を図ろうとしています。

④ ③のように、経営の重点である教師の授業力の向上や経営参画意識の高揚が見られました。

⑤ 来年度から西地区3小・中学校が、理科教育で連携を図っていくことになりました。

文科省は、次年度に理科支援員等配置事業を展開し、約3,000校に実験・観察を支える支援員を配置すると発表しました。本校にも是非配置願えないかと考えています。

ところで、学区内の余目地区では、市の生き生きビジョン活性化事業を活用し、ピオトープづくりを完成させました。また、源氏螢の里づくりも行っており、それらを地域の子どもたちに活用してもらいたいというありがたいお話をいただきました。それを受けて、指導教員がすでに理科教育の構想に取り入れようと案を練っているところであります。

公民館にもご協力をいただいて、理科好きで日々研究に励んでおられる市井の方々にお会いしてみたいとも考えています。

理科嫌いと言われるかもしれませんが、嫌いなのではありません。理科ごっこをさせる機会が少なかったのではないのでしょうか。本校の理科は、「ごっこ」ではなく本物ですが、「ごっこ遊び」のようなワクワクどきどき感が児童の心の中にあるように思えてなりません。遊びが児童の夢を大きくふくらませてくれるものと確信しております。理科専科の大いなる成果であると考えています。



3年「スイッチをつくらう」発表会より



# こころの力をはぐくみ、 よりよく生きる生徒を育成するために

大仙市立大曲中学校 研究主任 須田 百合子

## はじめに

本校では平成18・19年度文部科学省の「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」の指定を受け、学校・家庭・地域の教育活動全体で生徒の道徳性を培う研究を進めています。

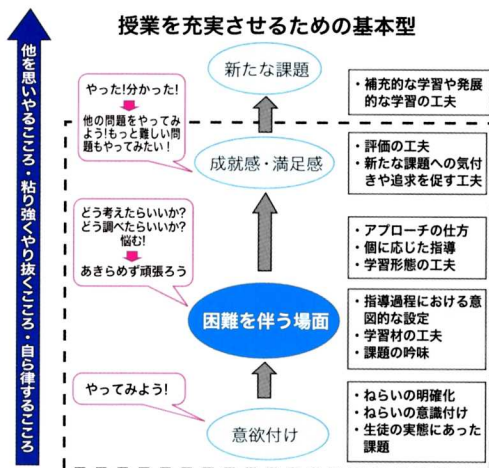
研究を進めるにあたり、目指す生徒の姿を具体的にイメージすることが必要であると考え、生徒への意識調査や教師や保護者へのアンケートをもとに、次の三つを重点目標としました。

- (1) お互いを思いやり、共に向上しようとする生徒の育成
  - (2) 夢や目標をもち、その実現に向かって努力する生徒の育成
  - (3) 善悪の判断ができ、節度ある生活をする生徒の育成
- これらの重点目標を実現するために生徒に付けたいこころの力を「他を思いやるこころ」「粘り強くやり抜くこころ」「自らを律するこころ」の三つとし、教育活動全体で育てていこうという研究の方向性が定まりました。

そして、次の四つを重点として研究を進めてきました。

## 1 こころの力をはぐくむための授業改善

重点目標を各教科の中でどのようにとらえていったらいいのかを考えたときに、日々の授業を充実させていくことが大切であると考え、「授業を充実させるための基本型」を設定し、教科に応じて具体的な手立てを講じながら実践しています。



特に、課題に取り組む中で生徒にとって「困難を伴う場面」を意図的・計画的に設定することを重視し、あきらめずに粘り強く取り組ませることで生徒はめあてに到達し、成就感や満足感を味わうことができるものと考えています。

## 2 意図的・系統的な読書活動

本校では、こころの力の基盤となる朝読書を通年行っています。また、生徒や保護者、教師から推薦してもらった本を「心に響く曲中50冊」とし、必読図書として奨励しました。夏休みにはその中から親子で同じ本を読み、コミュニケーションを図ってほしいと親子読書を実施しました。



道徳の時間での絵本の読み聞かせ

特に、絵本の魅力に着目し、読み聞かせや道徳の時間に生かす工夫もしています。

## 3 家庭や地域との連携の工夫

総合的な学習の時間では秋田県出身の俳優柳葉敏郎さんに対する思いを語っていただきました。また、道徳の時間では地域の方にゲストティーチャーとして参加していただいたり、家族からメッセージをもらったりするなどの協力を得ました。

さらに、PTA講演会では作家の柳田邦男さんを迎え、「感性を磨き、こころを耕そう」という題で生徒、保護者、教師を対象にお話をいただきました。

## 4 日常の意図的・継続的な実践

生徒が目にする環境がこころにも大きく影響を及ぼすものと考え、担任や生徒の思いを伝える詩の掲示に力を入れています。学級内には「こころの力コーナー」を設置し、道徳の時間の積み重ねが目に見えるようにしました。

また、いじめの問題を自分たちの手で解決しようと生徒会が「こころの力プロジェクト」を立ち上げ、一人一人の意識付けを図るための主体的な取り組みが見られました。

## おわりに

12月の日曜参観で全クラスが道徳の授業を公開しました。今までになく多数の保護者が参観し好意的な感想が得られたことは、今年度の成果の一つであると考えます。

今後も、三つのこころの力が確かなものになるように、授業改善を重視しながら、教育活動全体で取り組んでまいります。



# 西仙北東中学校生徒会 「いじめ撲滅」への取り組みについて

大仙市立西仙北東中学校 生徒会担当 田中 武晴

本校では、長年にわたり生徒会執行部および各学級のいじめ撲滅委員が中心となって、全校スローガンである「己の欲せざるところは人に施すことなかれ」を合言葉に、いじめ撲滅運動に力を入れて活動してきました。現在では、生活向上集会の一つとしてしっかりと定着し、あいさつ運動、ボランティア活動、リサイクル活動とならび西仙北東中学校生徒会活動四本柱の重要な一角を担っています。

この活動のねらいは、「いじめをしない」、「いじめをさせない」、「いじめを見過ごさない」という心構えと態度を育成し、本校からいじめの絶無をめざしたものです。特色としては、教師主導でなく、生徒会を中心に生徒自らが主体的に自分たちの生活を見つめ直す点があげられます。アンケートや意見箱などから情報を収集して実態を把握し、学級会や全校集会を開催して、一人一人が納得のいくまで話し合うことで、問題解決といじめ撲滅の啓蒙を促し、いじめのないよりよい学校を目指すというものです。

次に、具体的な活動内容について紹介します。

## 1 いじめ撲滅ポスター作成と掲示

これは四月の年度初めに、各学級で学級会を開き、今年度の自分たちの学級のいじめ撲滅のスローガンについて話し合っ決定し、そのスローガンに基づいたデザインの図案をみんなから出しあって作成するものです。完成した各学級のポスターは、教室および生徒たちが校内で一番よく利用する階段の壁に掲示しています。そうすることで、生徒たち日々の生活の中で、いじめ撲滅に対する意識を高め、啓蒙の一助となっています。



各クラスはいじめ撲滅ポスター

## 2 アンテナを高くする

これは、全校アンケートや意見箱による情報収集のことで、いじめの実態把握と早期解決をめざしたものです。どんなに小さなことでも、一人一人の声に耳を傾け、場合によっては生徒会執行部だけでなくいじめ撲滅委員と連携して、早期にいじめの芽を摘み取ることがねらっています。

## 3 いじめ撲滅全校集会の実施

今年度は、いじめアンケート集計をもとに、事前に学級会を開き、いじめとふざけとの違い等について真剣に話し合い、全校集会では各学級のいじめ撲滅委員から意見をまとめて提言してもらいました。また集会では、文部科学省の統計資料から全国的な傾向と本校の実態を比較したり、以前放映されたNHKの中学生日記いじめ討論会の中から、三つのいじめ事例をとりあげたりして、その解決方法について全校生徒が意見を出し合い、事例検討会も実施しました。切実ないじめ問題を目の当たりにし、生徒たちも自分のこととして受け止め、具体的な解決策について熱心に話し合いがなされました。そして集会の終末では、在校生の保護者からのメッセージやメジャーリーガー松井秀樹選手や歴史作家の司馬遼太郎さんからのメッセージを紹介し、生徒たちも改めて「やさしさ」や「思いやり」の大切さを実感した様子でした。

以上のように、本校では創立時から伝統的に生徒会が中心となって「いじめ撲滅」に力を入れてきました。今後もさらに発展させながら継続して活動を展開していきたいものと考えています。



いじめ撲滅全校集会の様子



# 文科省指定 キャリア教育推進地域指定事業

南外・西仙北地区事務局 小山 正美  
大仙市立南外中学校 教頭

## 1 はじめに

南外・西仙北地区は、16～18年度文部科学省から「キャリア教育推進地域指定事業」の指定を受け、  
(1)勤労観、職業観は小学校段階から積み重ねて育てる。  
(2)全教育活動を通してキャリア教育を実践する。  
(3)家庭、地域社会、関係機関との連携を推進する。  
の3つの視点で南橋岡小学校、南外西小学校、南外中学校、西仙北高等学校が連携し、研究を推進してきました。

## 2 事業の活動内容及び成果と課題について

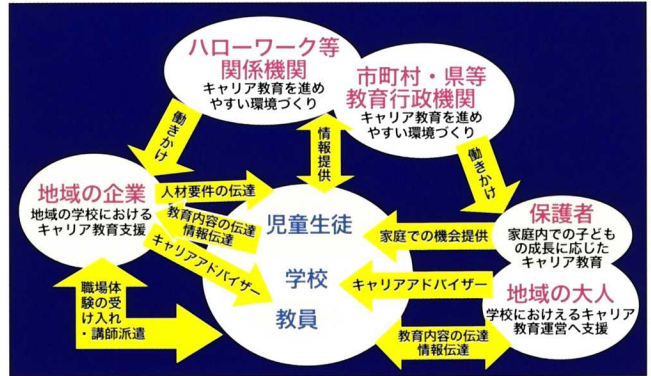
### (1) 主な活動内容

- ①小・中・高等学校を通じた組織的・系統的なキャリア教育を行うための指導方法、指導内容の開発
  - ・南外・西仙北地区キャリア教育全体計画の作成及び教科・道徳・特活との関連を明らかにしたキャリア教育指導計画の作成
  - ・小6の中学校体験活動、中1が小学校を訪問しての中学校生活のプレゼンによる紹介及び小学校で作成したキャリアプランの中学校への引き継ぎ等(小・中の接続)
  - ・中学生と高校生による老人保養施設でのボランティア活動及びキャリアプラン合同発表会等(中・高の接続)
- ②キャリア・アドバイザーの活用の在り方について
  - ・園芸農家、消防士、陸上選手など、各分野で活躍している地域の方々を招いてのワークショップ等(小学校)
  - ・本校卒の高校生や大学生との交流やPTA参観日のキャリア啓発研修、銀行員の方による職場マナー講座や中3生徒による昨年の経験を生かしての職場マナー講座等(中学校)



『小学生の中学校体験活動』

- ・日本ゼネラルエレクトリック社の社員、愛媛大学助教授によるワークショップ授業等(高校)
- ③職場体験活動推進のためのシステムづくりについて



- ・小学校…小5、小6で職場訪問を実施。
- ・中学校…中1、中2が縦割りの2人一組になり3日間連続、平成18年度には5日間の職場体験を実施。中2は秋田市周辺で自分の将来就きたい職業の1日国際理解ボランティア活動。
- ・高校…生徒自らが事業所へお願いし、1週間程度のインターンシップを実施。

### (2) 成果

- ・児童生徒には、「自分や周りの人の特性への気付き」や「積極的にコミュニケーションをとることの必要性への気付き」、「自らがキャリア発達の課題に気がつく姿」などが見られるようになりました。
- ・教職員には、小・中・高による合同の授業研究会や研修会を通して「キャリア発達」という視点で小学校から高等学校まで見通しをもって児童生徒を育成することに自信を深めることができました。

### (3) 課題

- ・キャリア教育における児童生徒の変容の把握と評価の在り方。
- ・特別活動、道徳、LHRを中心にした職場体験等の系統的な取り組み。

## 3 全体的な研究の総括と展望

地区の小・中・高の教職員がほぼ全員参加して中間発表会、今年度1月11日の「キャリア教育」報告会を行いました。また、リクルートワークスの辰巳哲子さんを招請し、次年度以降の継続実践内容について検討しました。そのことで、地区の教職員の共通理解のもとにキャリア教育推進の方向性について確認することができました。

指定事業の成果を、児童生徒のキャリア発達を支援していくための大きな第一歩にしていきたいと思います。



## キャリア教育実践 プロジェクトを終えて 大仙市立協和中学校

本校では今年度、文部科学省指定によるキャリア教育実践プロジェクトとして10月下旬に2年生63名が5日間連続の職場体験を行いました。ねらいは次の2つです。

- ①5日間の職場体験学習を実施することで、夢の実現に向けて困難なことやつらいことに立ち向かい努力する生徒を育てる。また、それにより望ましい勤労観や職業観を身に付け、自らの生き方を考える機会とする。
- ②職場での人とかかわりを通して、働くことの喜びを理解できるようにする。また、思いやりや感謝の気持ちをはぐくむ機会とする。

当日、生徒たちは2～6名のグループに分かれ、大仙市内17の事業所で貴重な体験をすることができました。

体験日誌には、仕事をするものの難しさや明日への決意が、また、後半には仕事をするものの喜びや感謝の言葉が記入されています。事業所の方からは一人一人に温かい励ましや明日へのアドバイスが書かれています。それを受け、保護者からは我が子の変容する様子への喜びや激励が書かれています。生徒たちにとっては、進路選択や今後の生き方を体験することによって学んだ5日間でした。

生徒の感想の一部を紹介します。

そうじで腰が痛くなったりして、大変な時もありましたが、入所者や職員の方に、ありがとうと言われ、とてもうれしくなりました。5日間はあっという間だったけど、たくさんのことを学ぶことができました。将来は、介護の仕事に就きたいと思いました。

主な成果としては次のことがあげられます。

- ①全員が、職場体験で充実感を感じている。
- ②事前・事後のアンケートでは「つらいことがあってもやり通す」生徒が増加し、「今の学習や生活の大切さ」を全員理解することができた。

事業所へのアンケートでは、次年度も受け入れたいと答えていただいたのは16カ所（1カ所は検討中）でした。次年度以降もこの職場体験を是非継続していきたいと考えています。



▲食事の準備(四季の湯)

▼小松菜出荷作業(弥栄)



## 自分の夢や希望をもち、それに向かって 一生懸命に努力できる生徒の育成 ～保護者、地域社会との連携～

大仙市立太田中学校

### 1 研究の基本的な方向

- ・勤労観、職業観を育成するために、3年生(68人)が5日間の職場体験を実施(7月31日～8月4日)する。
- ・キャリア発達を促すために道徳、特別活動、総合的な学習の時間等との関連を図る。

### 2 主な取り組み

- ・キャリア教育と総合的な学習の時間、進路学習、花壇作業やアルミ缶回収といった勤労体験等との有機的な関連付けとその実践。
- ・職場体験等を含むキャリア教育に関する全体計画の作成。
- ・システム作り(職場体験先の企業の確保と開拓、職場体験の円滑な実施へ向けた協力体制作り)
- ・生徒のキャリア教育に対する意識の変容調査。

### 3 アンケート調査より

#### ◆生徒から

「生き甲斐をもって働くことが大切だと思った。」  
「やっぱり責任感が大切なんだと思った。最後までちゃんとやることが社会で働くことだと感じた。」

#### ◆保護者から

「人の役に立つことのすばらしさを感じとってくれたようだ。」

#### ◆企業から

「仕事を覚えると自主的に行動できていた。また機会があったら受け入れたい。」

### 4 成果について

3年生を対象にしたが、進路に対する意識付けとして、または自分の生き方についてキャリア体験を通してじっくりと考える機会となったと思います。働くことの意義、大変さ、将来の夢をもつことなど真剣に考えようとする生徒が多くなりました。

### 5 今後の課題

保護者への協力依頼などにより33カ所の企業に協力していただきました。しかし、地元の企業だと職種が偏る傾向があり、生徒の希望に十分に対応できない場面もありました。自分の進路や今後の生き方に対する考えを深めるための援助や手だての工夫が必要だと考えます。

また、「5日間は長い」「高校のインターンシップと重なって」という企業からの声もあり、今後受け入れ先の確保のため、保護者、地域の商工会などとの更なる連携が必要だと考えます。



商品の袋詰め作業  
(手作り工房湧子ちゃん)



パンの生地作り(六郷製パン)



## 1 学習定着度調査

児童生徒の学力の定着状況を把握するために、小4から中3を対象に平成18年4月4日～18日に実施しました。小学校では、6年生の社会(5年生の内容)の通過率が67%と低いのですが、それ以外はすべて80%を超えており、おおむねもしくは十分満足の状況にあるとらえています。また、中学校では、1年生は通過率が70%～80%と小学校の内容がおおむね身に付いているようです。しかし、2・3年生については、ほとんどの教科が40～50%と、前学年の内容が十分定着しないまま進級している生徒が多いようです。このことを踏まえ、各学校からは、児童生徒一人一人について、何が身に付き、何が身に付いていないのかを分析し、朝自習や授業中、放課後等に回復指導を行っていただきました。そして、その取り組みの成果が7月に実施した県学習状況調査の結果として現れています。

さて、本調査の内容は前学年の学習状況であり、新年度新しく担当する児童生徒の実態を把握できるよさがありますが、回復指導に生かすことが難しいこと、4月当初の忙しい時期の実施であること、さらに来年度は4月に全国学力・学習状況調査があることなどから、平成19年度は次のような内容で実施します。

調査の目的を「現学年で基礎・基本を確実に定着させて進級・進学させることに直接役立つ調査」とし、小4から中2を対象に平成19年12月12日に実施します。実施に当たっては、学習定着度調査委員会を設置し、基本的な方向を検討し、問題づくりや結果分析を通して授業改善や回復指導のための情報提供に努めてまいります。

また、小4、小6、中1については、定着度調査委員会が問題を作成しますが、小5、中2については、つまづきの大きい学年であるという実態を踏まえ、標準学力検査(市が予算化)による調査を実施します。そして、全国的な状況との関係における特徴や課題等を把握し、指導方法の改善や児童生徒の学習の改善に生かしてまいります。

## 2 教職員研究集会

市内の教職員が一堂に会し、大仙市の教育の基本方針や各学校・園の特色を理解するとともに、地域のよさを生かし学校の創意工夫をもって幼児児童生徒の夢をはぐくむ学校教育の推進に資することを目的に、平成18年4月25日に開催しました。

合併2年目ということもあり学校紹介に時間を費やしましたが、来年度は、特色ある教育実践の発表と意見交換の場を中心とした内容で、平成19年4月25日に開催します。

## 3 学校応援訪問の実施

今年度は、前期、後期と2回にわたって教育委員会の学校訪問を行いました。

4月当初に立てた目標や課題を達成するために、先生方全員が共通の視点をもって授業改善に取り組み、後期、その成果が子どもの姿となって現れてきている学校が数多くみられました。

授業については、次の点なども参考にして授業改善に取り組まれることを期待します。

### ①学習材の工夫

- ・学習シートを与えて、子どもが穴埋めするだけの授業が目につきました。学習シートの活用に加え、子どもが気付いたり操作したりすることを通して、思考を深めたり解決の手がかりをつかませたりするような学習材の工夫が必要です。また「努力を要する子ども」や「十分満足の子ども」に対応する学習材の準備が必要です。

### ②思考力や創造力を高める場の設定

- ・状況や結果を問うだけで、考えさせる発問になっていなかったり、「楽しかった」だけで終わってまったりするような授業がありました。

体験的な活動などを生かして、新しいものをつくり上げたり、考えを深めたりする場を設定する必要があります。

### ③子どもの自己評価の工夫

- ・自己評価が形式的で、チェックして終わりになっていることがあります。

子ども自身が自分の成果や課題をつかめるような自己評価を工夫する必要があります。

来年度も、各校の現状と課題を把握するとともに、市教育委員会に対する率直な意見や要望をよせていただき、今後の大仙市教育のよりよい方向性を探る機会とするために、教育委員会訪問を年2回実施いたします。

## 4 教育研究所ホームページ(DEネット)

43小・中学校が一体感をもって力強く日々の教育を実践できるよう、また、質の高い授業づくりを支援するために、平成18年10月30日に開設しました。DEネットは、教職員用公用コンピュータにあるインターネットエクスプローラーの「お気に入り」に登録されています。

今後は、先生方が、今必要とする情報の提供に努めてまいります。

## 平成18年度 教育研究所のあゆみ

今年度の主な施策・事業の実施状況及び来年度の取り組みについて紹介します。

### 発行 大仙市教育研究所

〒014-0053 秋田県大仙市大曲花園町4-88  
TEL 0187-63-9400 FAX 0187-63-9401  
E-mail om-kyouken@edu.city.daisen.akita.jp